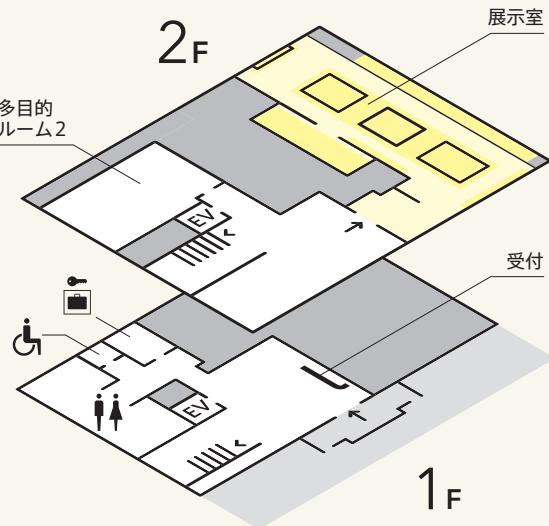


てんじしつ 展示室について



「人びとが楽しく幸せにくらす」ために、
石橋正二郎がしたことをいろいろな資料で紹介しています。
むかしの写真や新聞のほか、
正二郎や石橋文化センターのことがわかる
模型も展示してあります。
画面にさわって正二郎のことを
もっと知ることができるコーナーもあります。
「正二郎がどんなきもちで行動したのか?」
想像しながら見てみましょう。



石橋正二郎 (1889-1976)

石橋正二郎記念館

〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015
Tel 0942-39-1131



石橋正二郎記念館

いしばし しょうじろう きねんかん



石橋正二郎の生涯

少年のころ

ねばり強い努力家



久留米で生まれた正二郎は、子どものころから
「自分が正しい」と信じたことは最後までやりとげる人でした。
立派な大人になるために、勉強はきっと役に立つはず。
そのことを信じた正二郎は、誰よりも勉強をがんばり、
大人になっても、勉強を毎日つづけました。

いしばし しょうじろう おも
石橋正二郎の想い

くろめい せいもん
久留米市の石橋文化センターの正門には、
正二郎の手書きの文字でこんな言葉が刻まれています。

「世の人々の楽しみと幸福の為に」

正二郎は、世の中の人たちが楽しく幸せに生きるために、
1956(昭和31)年、石橋文化センターをつくったのです。
記念館で、正二郎の想いを感じてみましょう。

17さい～

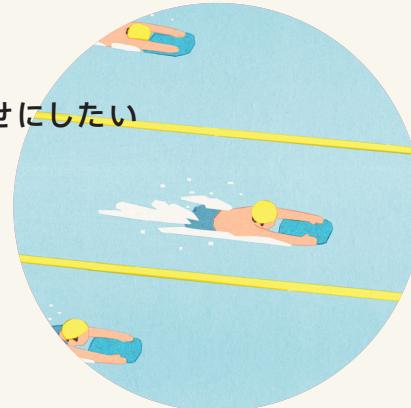
日本一の足袋屋になる



そつぎょう
高校を卒業したあと、
いととな
家で正二郎の父親が営んでいた「志まや」という足袋屋を継ぎました。
うら
足袋の裏にゴムのついた「地下足袋」を考え、
じかたび
九州で1台も走っていなかった自動車を使って宣伝をするなど、
せんてん
誰も考えない新しいアイデアで、日本一の足袋屋になりました。

68さい～

人びとを楽しく幸せにしたい



せいちょう
正二郎は、会社を成長させながら、世の中の人たちみんなが
楽しく幸せにくらせるようにしたいと、ずっと考えていました。
そして、ふるさと久留米の小・中学校21校にプールをつくったり、
石橋文化センターをつくったり、
たくさんの楽しさと幸せを生み出しつづけたのです。

42さい～

タイヤで世界一をめざす



ぎじゅつ
地下足袋づくりの技術をもとに、
はじ
1930年に日本で初めて自動車のタイヤをつくり、
その後、ブリッヂストンタイヤという会社を立ち上げます。
はんぱい
足袋につづき、タイヤの販売でも日本一になり、
今度は外国でタイヤを売ろうと考え、世界一を目指しました。



61さい～

日本や外国に美術館をつくる



仕事でアメリカに行ったとき、
正二郎は有名な美術館をたくさん見てまわります。
そこで「人が楽しく幸せに生きる」には、
ゆた
美術館のような心を豊かにする場所が必要だと思いました。
ひょう
そして、久留米・東京・外国に合計4つもの美術施設をつくったのです。